

行動理解に強くなるABC分析実践講座

— 行動の理由を読み解き、効果的な支援を組み立てる —

R8.9.8

障がい児成長支援協会セミナー



合同会社サンクスシェア
代表社員・相談支援専門員 田中 さとる



宿題時に事業所飛び出し！

「もおお～！」 「なんで？？？」

- ⑦ 施設を飛び出し！
- ⑥ Aスタッフ、Bスタッフが制止する
- ⑤ 宿題を紙吹雪状にびりびりと破る
- ④ 他の児童から呼ばれて、本人から離れる
- ③ ローマ字表を持ってくる + ホワイトボードを持ってくる
- ② 「教えて～！」 Aスタッフが対応
- ① 順調に宿題（ローマ字の読み書き）を開始

行動には理由がある



- ・ チャレンジング行動
- ・ 障がい特性
- ・ 発達理解

チャレンジング行動

知的障害、発達障害、認知症などのケアにおいて、周囲の人にとって対応が困難で、本人の安全や社会生活に支障をきたす行動



子どもの「困った」行動の要因分析・カテゴリ分類 (tanaka)				
	事例	要因	分類Ⅱ	分類Ⅰ
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	場面に合わせた適切なあいさつや言葉かけができない	あいさつをする習慣がない。あいさつを返さなくてはならないことを知らない	日常生活習慣	生活
		ことばの使い方がわからない	言語表出	認知
		人への関心が低く、相手に注目できていない	他者理解	心理
		想像力が乏しく、相手の表情から気持ちを読み取れない	想像性	特性
		自分に自信が持てない	自己肯定感	心理
		自信がなく、友だちと話すのが苦手	自己肯定感	心理
	謝らない、ありがとうを言えない	あいさつの言葉や使い方を知らない	語彙力	認知
		ことばの使い方がわからない	言語表出	認知
		人への関心が低く、相手に注目できていない	他者理解	心理
		感情や行動を抑えられず、自分が悪いことに気づけない	衝動性	特性
	人の話を聞けない	自分だけが正しいと思っている	他者理解	心理
		注意力が散漫で、集中するのが苦手	不注意	特性
		話したい欲求を抑えることができない	衝動性	特性
		内容が分からなくなって、飽きてしまう	集中力	特性
	おしゃべりがやめられない、一方的に話してしまう	話しかけられていることに気づかない	不注意	特性
		会話するときのルールがわかっていない	日常生活習慣	生活
		相手の表情や反応を見ていない	不注意	特性
		おしゃべりしたい気持ちを抑えることができない	衝動性	特性
	発言したり、質問に応えたりするのが苦手	場面に合せて行動する必要性が分かっていない	判断力	認知
		周囲の状況を見ていない	不注意	特性
		語彙が少ない	語彙力	認知
		質問を聞いていない	不注意	特性
		質問の意味が理解できていない	言語理解	認知
		自分の考えをまとめられない	思考力	認知
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	指名されていないのに答えてしまう	自分に自信が持てない	自己肯定感	心理
		意見を言うのが恥ずかしい、緊張して言えない	不安緊張	心理
		話したい衝動を抑えられない	衝動性	特性
		答えるタイミングがわからない	判断力	認知
		ルールの内容が理解できていない	言語理解	認知
		周囲の状況を見ていない	不注意	特性
	集団での話し合いが難しい	適切な状況かどうか判断することが難しい	判断力	認知
		自分の意見を行ったり、要求を伝えたりするのが苦手	言語表出	認知
		自信がなく、意見を言うのが恥ずかしい	自己肯定感	心理
		会話するときのルールがわかっていない	日常生活習慣	生活
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		役割交代ができない	役割責任	社会
		感覚鈍麻があり力加減が分からない	感覚鈍麻	特性
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		興奮して声が大きくなってしまふ	衝動性	特性

ASD

自閉スペクトラム症

Autism Spectrum Disorder

社会的コミュニケーションの特性と、興味・行動の偏りが見られます。現れ方は人によって大きく異なり、「スペクトラム（連続体）」として捉えます。

※ 現れ方には大きな個人差があります。
「その子の姿」から理解を始めましょう。

主な特性

A 対人・コミュニケーション

- 表情・視線・距離感など、非言語サインの読み取りが難しい
- ことばを字義通りに受け取りやすく、比喻や冗談が伝わりにくい
- 相手の気持ちや場の空気を察することに難しさがある

B こだわり・興味の偏り

- 同じ手順や順番、物の配置への安心感が強い
- 特定の興味分野に深く没頭することがある
- 予定変更や予測できない出来事に強い不安を感じやすい

C 感覚の特性

- 音・光・触感・においへの過敏さや鈍麻が見られる
- 集団のざわつきや蛍光灯などで疲れやすい
- 服のタグ・水・粘土など特定の刺激を強く避ける／求める

D 想像と見通しの難しさ

- 「次に何が起こるか」を頭の中で組み立てにくい
- 抽象的な言葉や曖昧な指示が理解しづらい
- 経験のない場面で行動を選びにくくなる

ADHD

注意欠如・多動症

Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder

「不注意」「多動性」「衝動性」が、年齢や発達段階に比べて目立つ状態です。三つの組み合わせには個人差があります。

特性の現れ方は子どもによって異なります。「サボり」「わがまま」ではありません。

主な特性

PILLAR 01

不注意

Inattention

- 集中が続きにくく、別の刺激に注意が向かいやすい
- 細部のミスや忘れ物が多く、手順を最後までやり切るのが難しい
- 興味のあることには驚くほど集中できる（過集中）こともある

PILLAR 02

多動性

Hyperactivity

- 座っていてもそわそわ動く、手足を絶えず動かす
- 静かにすべき場面で席を立つ、走り回ってしまう
- しゃべり続けたいくなる、声の大きさを調整しづらい

PILLAR 03

衝動性

Impulsivity

- 思いついた瞬間に行動・発言してしまう
- 順番を待つこと、欲しいものを我慢することが難しい
- 結果を予測する前に動くため、けがやトラブルにつながりやすい

LD

限局性学習症
(学習障害)

Specific Learning Disorder

全般的な知的発達に遅れはなく、特定の領域（読む・書く・計算）に著しい困難があります。本人の努力不足ではありません。

困難の領域・程度は個人差が大きく、「やる気の問題」と捉えないことが大切。

主な特性

AREA 01

読み

ディスレクシア
Dyslexia

- 文字を音にスムーズに変換できず、たどたどしくなる
- 行を飛ばす、同じ行を繰り返し読んでしまう
- 読めても内容の理解に多くの労力がかかる

AREA 02

書き

ディスグラフィア
Dysgraphia

- 形の整った文字を書きにくく、マスからはみ出す
- 鏡文字・形の似た字（め／ぬ等）の混同がある
- 書く速度が遅く、板書を写しきれない

AREA 03

算数

ディスカリキュリア
Dyscalculia

- 数の量感覚（5と8どちらが多いか等）がつかみにくい
- 繰り上がり・繰り下がり、筆算の手順でつまずく
- 文章題で何を問われているか読み取りにくい

快・不快

(やってみたいのもと)
子ども脳

情動をつかさどる扁桃体（大脳辺縁系）

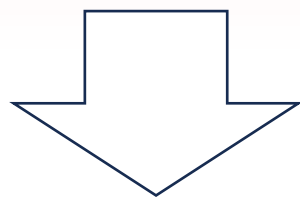
- ・ 幼児期に急激に発達
- ・ 10歳～ さらに発達
(思春期のホルモン影響)

価値観

(ねばならない)
おとな脳

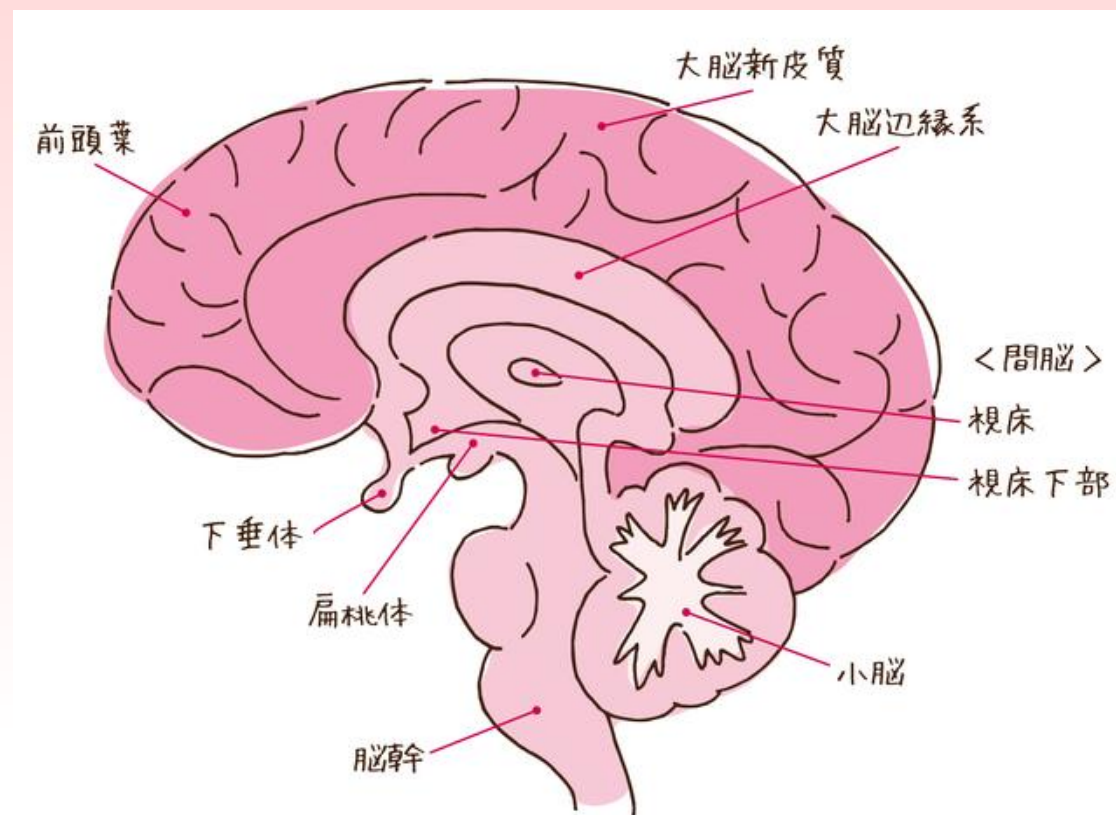
価値観をつかさどる前頭前野

- ・ 20歳から30歳に完成
※感情の抑制、コントロールは
20歳を過ぎても発達



教育と遊育
A・K・U

価値観の行き過ぎた優先は、
大脳辺縁系のゆがんだ発達を招く



大脳辺縁系（情動をつかさどる）

インプット
五感（感覚神経）

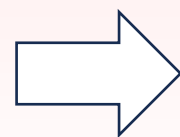
アウトプット
（運動神経）

随意筋

不随意筋

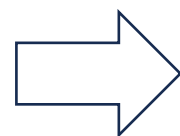
不随意筋

【自律神経】
・ 交感神経
・ 副交感神経



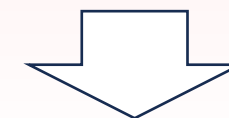
大脳辺系
視床下部が
コントロール

【内分泌系】
・ ホルモン
・ 神経伝達物質
（セロトニンetc.）



大脳辺系
視床下部が
コントロール

神経細胞は、
生まれた直後が最大



3才～

神経回路の刈り込み
～完成は9歳

心の理論とは

 **心の理論**ってなに？

(Theory of Mind)

「相手の気持ちや考えていることを“想像して”理解する力」

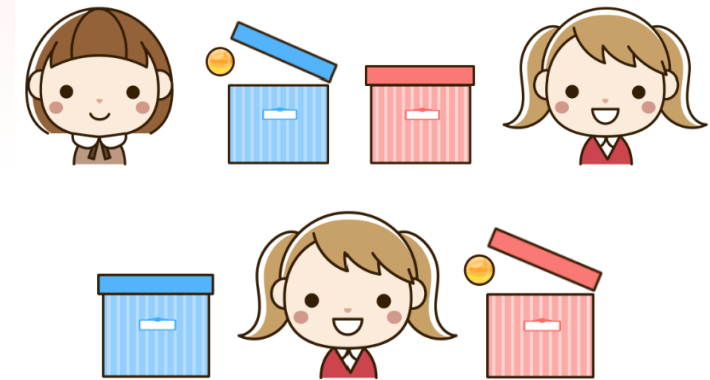
「“自分と相手はちがう気持ち・ちがう考えをもっているんだ”と気づける力」

① 相手がどう思っているか考えられる
「この人は悲しんでいるかも…」
「こう言ったらイヤな気持ちになるかな…」
など、相手の心を想像できる

② 相手が見えていないものを理解できる
自分は知っていても、相手は知らないことがあると理解できる

③ 相手の立場に立って考えられる

「もし自分が相手だったら、どう感じるかな？」という想像ができる



サリーとアンの課題

必要な支援の「見立て」



- ・ アセスメント
- ・ ABC分析
- ・ 行動の機能

ありがちな行動理解の4つ

「わがまま」だから

性格や道徳の話になってしまう
⇒ 明日も叱るだけ

「こだわりが強い」から

本人の中だけの話になる
⇒ 環境の調整に届かない

「ADHDだから」

診断名で片づけて終わる
⇒ "じゃあどうしよう"が止まる

「やる気がない」

本人の内面の動機に依存
⇒ 外的要因が見えなくなる

これだけでは、【明日の支援方法】が決まらない。

— どの説明も、明日の環境を変える視点をくれない —

支援につながる**問い（見立て）**を立て直す

× 「どうしてこの子はこんなことをするの？」
— 内面・性格の説明を求める問い。答えが出ない。

○ 「この行動は、どんな状況で起こりやすく？」
— 観察可能な事実を尋ねる。比較できる。

○ 「行動すると、その後どうなっている？」
— 行動が"続いている理由"に目を向ける。

この2つの問いこそが —— 次の ABC分析 へと直接つながる問い方（=**アセスメント**）

アセスメントの定義

- 「一つ一つの情報を自分なりに解釈し」 + 「それらを組み立て」
生じている問題の成り立ち（メカニズム）をまとめ上げ、
- ・ 支援課題を抽出すること
 - ・ その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすること（＝「見立て」ること）

アセスメントの方法

- ・ 観察（自然観察・仮説検証観察）
- ・ 面接（本人や保護者、関係者からの聞き取り・情報収集）
- ・ 質問紙法（アンケート）
- ・ 検査法（学力検査 知能検査 性格検査 投影法
人間関係検査 作業検査法 各種心理検査）
- ・ ポートフォリオ（連絡帳 写真 創作作品 絵画 感想文など）

アセスメントの視点（5領域）

（ア）健康・生活

- （a）健康状態の把握
- （b）健康の増進
- （c）リハビリテーションの実施
- （d）基本的な生活スキルの獲得
- （e）構造化等により生活環境を整える

（イ）運動・感覚

- （a）姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
- （b）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- （c）身体の移動能力の向上
- （d）保有する感覚の活用
- （e）感覚の補助及び代行手段の活用
- （f）感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応

（ウ）認知・行動

- （a）視覚、聴覚、触覚等の感覚や認知の活用
- （b）知覚から行動への認知過程の発達
- （c）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
- （d）数量、大小、色等の習得
- （e）認知の偏りへの対応
- （f）行動障害への予防及び対応

（エ）言語・コミュニケーション

- （a）言語の形成と活用
- （b）受容言語と表出言語の支援
- （c）人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- （d）指差し、身振り、サイン等の活用
- （e）読み書き能力の向上のための支援
- （f）コミュニケーション機器の活用
- （g）手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用



（オ）人間関係・社会性

- （a）アタッチメント（愛着行動）の形成
- （b）模倣行動の支援
- （c）感覚運動遊びから象徴遊びへの支援
- （d）一人遊びから協同遊びへの支援
- （e）自己の理解とコントロールのための支援
- （f）集団への参加への支援

児童発達支援ガイドラインに示された「本人支援」

障がいの2つの“D”

D i s a b i l i t y

Learning Disability, LD

Weblio 英和辞典・和英辞典 1137万語収録！

英和英辞典 英語例文 英語類語 共起表現 英単語帳 英語力診断 英語翻訳 英会話 スピーキングテスト 優

ターボ検索 OFF ON ability 一致する 項目を

Weblio 辞書 > 英和辞典・和英辞典 > 英和辞典 > abilityの意味・解説

シェアする いいね! ツイート 広告を消す

意味 例文 (999件) 類語 共起表現

abilityとは
意味・読み方・使い方

主な意味 できること、能力、技量、力量、才能

new! →イラストで分かる英単語

音節 a·bil·i·ty 発音記号・読み方 / əbɪləti (米国英語) /

abilityの品詞ごとの意味や使い方	名詞としての意味・使い方 【接尾辞】としての意味・使い方
abilityの変形一覧	名詞: abilities(複数形)
abilityの学習レベル	レベル: 1 英検: 3級以上の単語 学校レベル: 中学以上の水準 TOEIC® L&Rスコア: 220点以上の単語

new! →TOEIC頻出のビジネス英語450語！

D i s o r d e r

Attention-deficit hyperactivity disorder、ADHD

Weblio 英和辞典・和英辞典 1137万語収録！

英和英辞典 英語例文 英語類語 共起表現 英単語帳 英語力診断 英語翻訳 英会話 スピーキングテスト 優

ターボ検索 OFF ON order 一致する 項目を

Weblio 辞書 > 英和辞典・和英辞典 > 英和辞典 > orderの意味・解説

シェアする いいね! ツイート 広告を消す

意味 例文 (999件) 類語 共起表現

orderとは
意味・読み方・使い方

主な意味 順序、順、語順、整理、整頓(せいとん)、整列、(...の)状態、調子、(社会の)秩序、治安

new! →イラストで分かる英単語

音節 or·der 発音記号・読み方 / ˈɔːdə (米国英語), ˈɔːdə (英国英語) / フリガナ オーダー

コア 順序づけられた秩序
「順序」と「秩序」の要素があり、秩序を求めて出す「命令、指示」、さらには指示の一環としての「注文」などの意が派生する

『新たなできる』をつくる・『今あるできる』を増やす の見極め

アセスメントのステップ

アセスメントとは、単に情報収集することではない！

- ① できているか、できていないかを把握
- ② なぜ？の「背景」を探る（特性）
- ③ 必要な支援を「見立て」る（行動分析）
- ③' どうやったらできるのか？を見つける = 「アセスメント」
ex. こちらから情報を投げかけ、反応を見る

視点の転換：可能性を見つけるリフレーミング



大切なのは、「できないこと」だけを見るのではなく、
「どんな条件ならできるか」まで見ることです。

「見えない強み」を可視化する方程式



強みは本人の中だけにあるわけではありません。
本人が発するサインに対して、支援者がどう理解し、どう環境を調整するか。
この掛け算によって初めて『強み』は姿を現します。

ABC分析 7ステップ

- ① 標的行動を決める
- ② A・B・Cを記録
- ③ 複数回集める
- ④ パターンを探す
- ⑤ 機能を仮説化
- ⑥ 支援を実施
- ⑦ 評価して修正

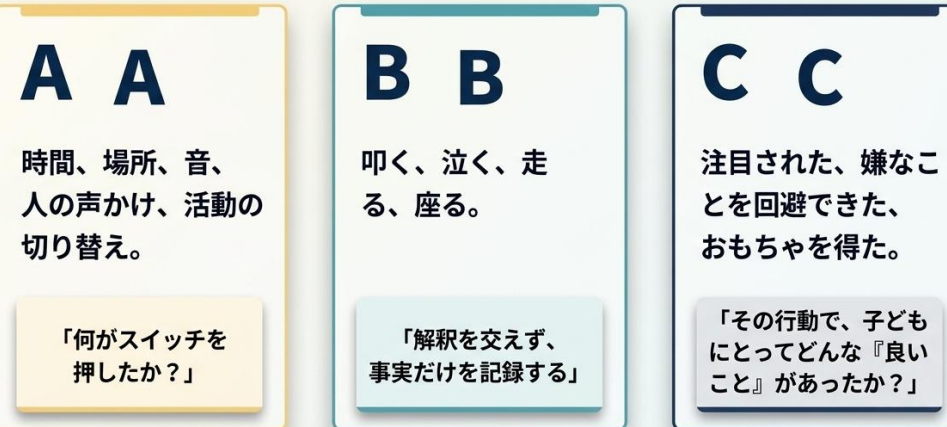
行動を3つのブロックに分解して解剖する



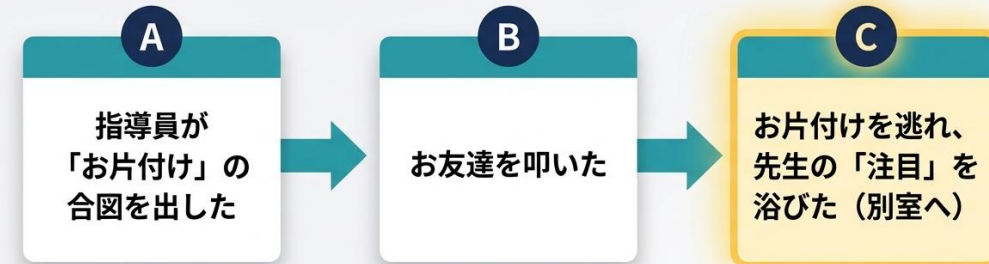
ABC分析 7ステップ

- ① 標的行動を決める
- ② A・B・Cを記録
- ③ 複数回集める
- ④ パターンを探す
- ⑤ 機能を仮説化
- ⑥ 支援を実施
- ⑦ 評価して修正

ABCの各パーツには何が入るのか？



行動は、その後の「結果（C）」によって維持される



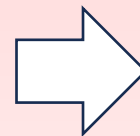
子どもは「叩きたかった」のではなく、「お片付けから逃げたかった/注目されたかった」のが真の目的。

手順① 標的行動を決める

まずは「何を記録するか」を、誰が見ても分かる言葉にする

× あいまいな表現

- ・ 落ち着きがない
- ・ パニックになる
- ・ わがまま



○ 観察できる表現

- ・ 活動中に席を立つ
- ・ 床に寝転び「嫌だ」と大声で言う
- ・ 他児の腕を手で叩く

手順② A：行動の直前を見る

「何がきっかけ？」を推測せず、直前の出来事を観察する

人

職員の声かけ
他児とのやり取り

活動

宿題・片付け
自由遊び・待ち時間

環境

場所・人数
音・時間・切り替え

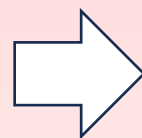
事実で書く ×「宿題を嫌がった」 → ○「職員が『宿題を始めよう』と言った」
例：15:30、自由遊び終了5分前に「あと5分で片付け」と伝えた。

手順③ B：行動を具体的に記録する

行動そのものを「見たまま・聞いたまま」記録する

× 解釈

「パニックになった」
「荒れた」
「不機嫌だった」

**○ 具体的な記録**

「床に寝転び、約3分間泣きながら
『嫌だ』と繰り返した」
「職員の腕を平手で2回叩いた」

回数

何回？

時間

何分？

強さ

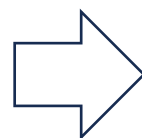
どの程度？

手順④ C：行動の直後を見る

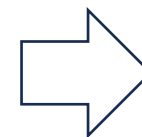
行動のあとに「何が変わったか」を記録する

A | 宿題を提示

職員：
「宿題を始めよう」

**B | 大声・離席**

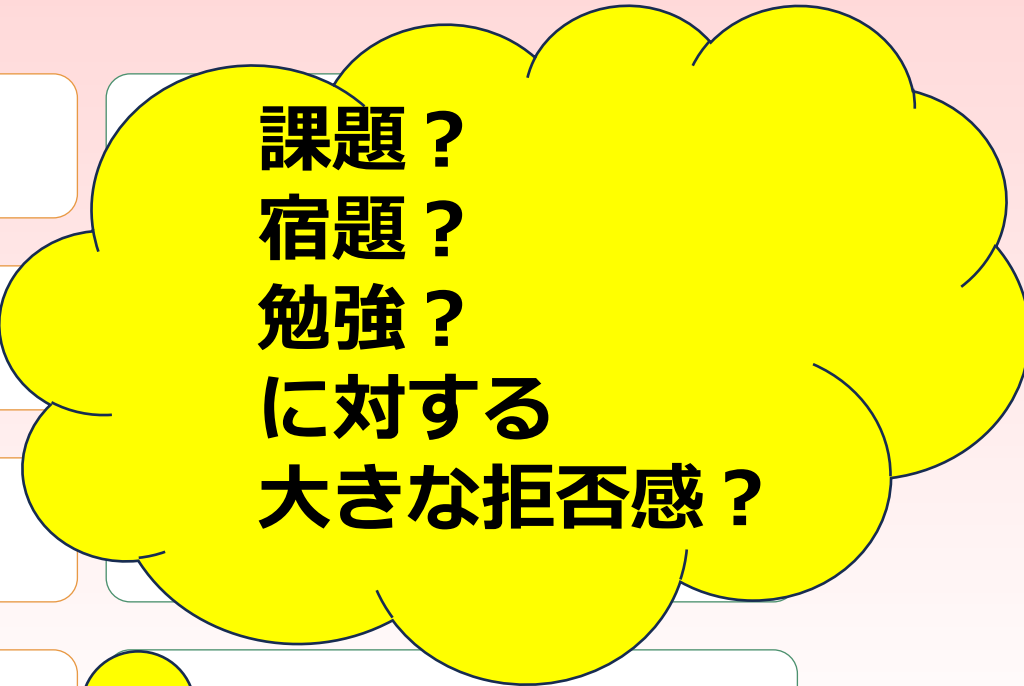
「嫌だ！」と言って
席を立つ

**C | その後**

宿題が一旦中断された

手順⑤ 1回で決めず、複数回集める

記録を並べると「共通するパターン」が見えてくる

月	宿題提示	大声・離席	
火	プリント提示	紙を投げる	
水	計算問題提示	机の下へ	
木	宿題提示	「やらない」	
			開始が遅れる

見えてきたこと

「課題提示」→「行動」→「課題の延期・中断」が繰り返されているかも

手順⑥ 行動の「機能」を仮説として考える

問い：この行動によって、本人は何を得ている／避けている？

ほしい

物・活動・要求

気づいて

注目・関わり

避けたい

課題・刺激からの
回避／逃避

感覚

感覚的な結果

手順⑦ 支援を組み立てる

A・B・Cのそれぞれに、支援の工夫を考える

A | 起こる前の工夫

- ・ 課題量を調整
- ・ 見通しを示す
- ・ 順番を選べるようにする
- ・ 休憩を予定に入れる

B | 代わりの行動

「休憩したい」
「手伝って」
「分からない」
など、伝え方を教える

C | 適切な行動の後

適切に伝えられたら
休憩・援助など、本人に
意味のある結果につなげる

「環境設定」「かかわり」の対応



- ・ チャレンジング行動への対応サイクル
- ・ 「環境設定」
- ・ 「かかわり」
- ・ バイパスモデル

チャレンジング行動への対応のサイクル

- | | | | |
|----|---|--|---------------------------------------|
| 事中 | { | ① 起きてしまった状態をできる限り早く収める | ☐ 早く収めたか？ |
| | | <ul style="list-style-type: none">原因や要因の削除クールダウンスペースの確保 | |
| 事後 | { | ② 落ち着いたらトラブル処理をする | ☐ トラブル処理したか？ |
| | | <ul style="list-style-type: none">謝罪や仲直り、問題である理由の説明など今後の約束を決めさせる（決める） | |
| 事前 | { | ③ 約束に沿った対応をする | ☐ 約束に沿って対応したか？ |
| | | <ul style="list-style-type: none">決めた約束を決してスルーしない（すべてのスタッフ） | |
| | | ④ 起きた状況・行動を分析する | ☐ (記録から)分析したか？ |
| | | <ul style="list-style-type: none">【状況】 【きっかけ】 【生まれた結果】 を洗い出す | |
| | | ⑤ チャレンジング行動がおこらない環境設定をする | ☐ 環境設定していたか？ |
| | | <ul style="list-style-type: none">事前の約束を徹底する | |

① 起きてしまった状況をできる限り早く収める

- | | | |
|---|--------------|---|
| ア | <u>安全の確保</u> | ・ 本人や周囲の子どもがけがなどしないよう
安全を確保する（自傷の軽減 他児の移動など） |
| イ | <u>刺激の除去</u> | ・ いやになっている刺激を取り去る
（視覚 聴覚 触覚 におい など） |
| ウ | <u>刺激の制御</u> | ・ 現状以上の刺激を与えない
（クールダウンスペース クールダウン部屋） |
| エ | <u>受け入れ</u> | ・ まずは気持ちのすべてを受け止める |
| オ | <u>切り替え</u> | ・ 本人が興味ある話題や物を使って
気持ちを切り替える |
| カ | <u>見守る</u> | ・ 症状が治まるまで安全を確保して待つ |

② 落ち着いたらトラブル処理をする

- | | | |
|---|-----------------|--|
| ア | <u>聞き取り</u> | ・ 状況や原因等について話を聴く |
| イ | <u>不適切行動の確認</u> | ・ なにがよくなかったのか？を共通確認する
・ なぜよくなかったのか？を説明、説得する |
| ウ | <u>対処方法の確認</u> | ・ どうすればよかったのか？を共通確認する |
| エ | <u>行動の修正</u> | ・ 正しい行動のやり直し（練習を含む：SSTの活用）
・ 謝罪や仲直り等の介入 |
| オ | <u>今後の方針確認</u> | ・ 今後のふるまい方の約束をする
・ 今後の目標、取り組む内容や方法を確認する |

③ 約束に沿った対応をする

- ア まずは
- ・ 今後の約束を決めて、その状況への対処を終える
- イ 約束のポイント
- ・ 本人が実行でき、かつ、成功しそうな約束
 - ・ 本人が意識できる（難しすぎない）約束
 - ・ 振り返りを定期的に行うこと
- ウ 発展を意識
- ・ 状況によってはバージョンアップする
- これが、
- 『望ましい行動』を身につけるにつながる！

④ 起きた状況・行動の分析

ABC分析 7ステップ

- ① 標的行動を決める
- ② A・B・Cを記録
- ③ 複数回集める
- ④ パターンを探す
- ⑤ 機能を仮説化
- ⑥ 支援を実施
- ⑦ 評価して修正

行動を3つのブロックに分解して解剖する



⑤ チャレンジング行動がおこらない環境設定をする

「環境設定」

店でほしいものをみつける

B（行動）

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

「かわり」

ほしいものが
手に入る

レベルⅠ

『A』の状況を変える

「環境設定」

レベルⅡ

『C』の結果を変える

「かわり」

レベルⅢ

『B』の行動を変える

【3つのポイント】

“ABC分析 → 支援” の考え方

① 代わりの行動をつくる

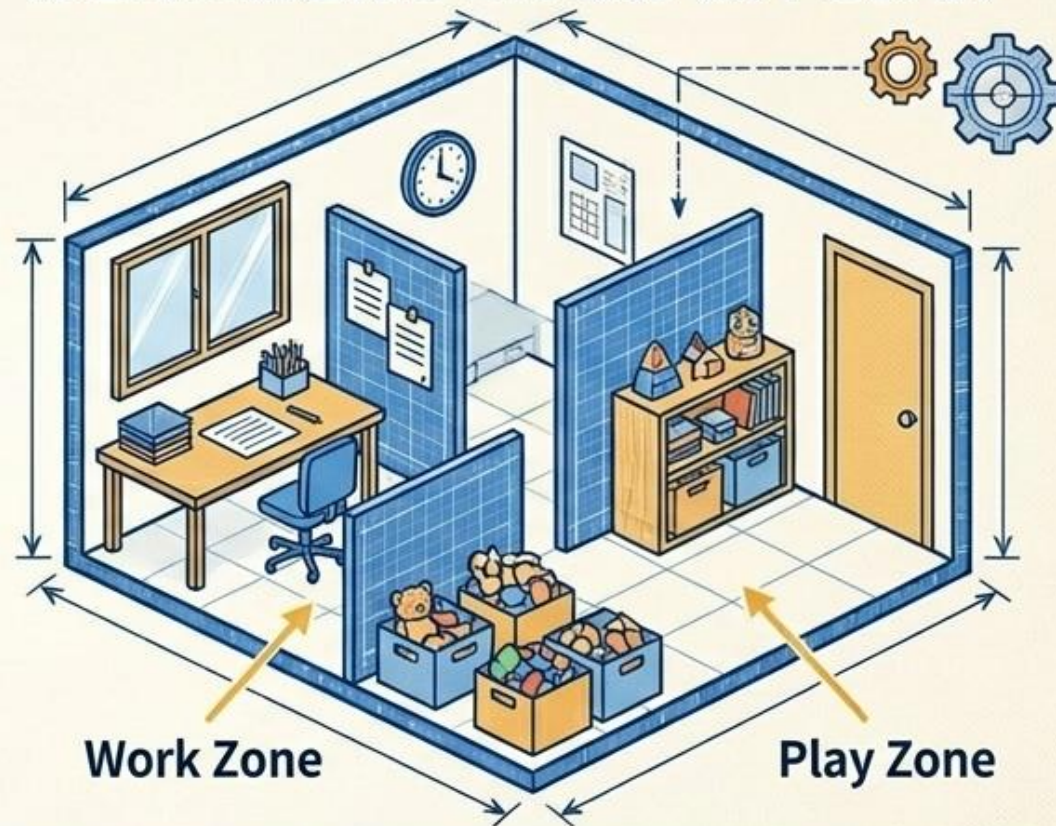
② 望ましい行動をつくる

物理的構造化：空間の意味を明確にする

未調整の環境（混乱と不安）



物理的に構造化された環境（集中と安心）



目的：ASD児童が理解しやすい環境を作る

方法：活動エリアをパーテーションや家具で区切る

効果：視覚的な刺激（ノイズ）を減らし、集中と安心を生む

時間の構造化：未来を予測可能にする



課題

「次何が起こるか分からない」状態は極度のパニックを引き起こす。

解決策

1日のスケジュールを視覚的なルーチンで提示。

効果

予定変更の際も、言葉ではなくスケジュール表を書き換えることで納得しやすくなる。

活動の構造化と視覚的支援：自立を促す

消えてしまう聴覚情報（混乱）

空間に留まる視覚情報（自立）



手順の提示（始まりと終わり）を明確にし、
支援者に依存せず自ら行動できる仕組みを作る。

「もの」 ・・・ものを使って環境そのものをコントロールする

例：壁向きに配置した机で学習する

「こと①」 ・・・活動内容やイベントのコントロール

例：「今日のおやつコーナー」などスケジュールボードの提示をする

「こと②」 ・・・空間・場所のコントロール

例：学習やおやつの時間に座る席を指定する

「こと③」 ・・・時間帯や時間の長さ、順序などのコントロール

例：本人合わせた、時間入りのスケジュール表を準備する

――

「ひと」 ・・・いわゆる誰が対応するか 人による対応の仕方

例：重要なルールをインプットしてほしい時、管理者に話をしてもらう

環境設定（構造化）のポイント

環境調整は、**アセスメント**に応じて

- ・ 環境調整（構造化）ありきではない
- ・ できることのじゃまをしない
- ・ 「ひと」の優先順位を可能な範囲で下げる
- ・ エンパワメントを意識する（＝自立）

⑤ チャレンジング行動がおこらない環境設定をする

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが
手に入る

レベルⅠ

『A』の状況を変える

「環境設定」

【3つのポイント】

レベルⅡ

『C』の結果を変える

「かわり」

レベルⅢ

『B』の行動を変える

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

“ABC分析 → 支援” の考え方

チャレンジング行動への対応

行動の頻度を下げる（＝強化しない） 【チャレンジング行動が強化されている状態を断ち切る】

方法① 刺激の撤去

※ 事前合意

方法② 消去手続き（計画的無視）

方法③ 嫌悪刺激の呈示（罰）

方法④ 分化強化手続き

※ 事前合意

ア 低頻度分化強化 : 不適切行動の回数や時間が基準以下の場合に強化する

イ 他行動分化強化 : 不適切行動が起きていない場合を強化する

ウ 対立行動分化強化 : 同時に実行できない代替りの行動を強化

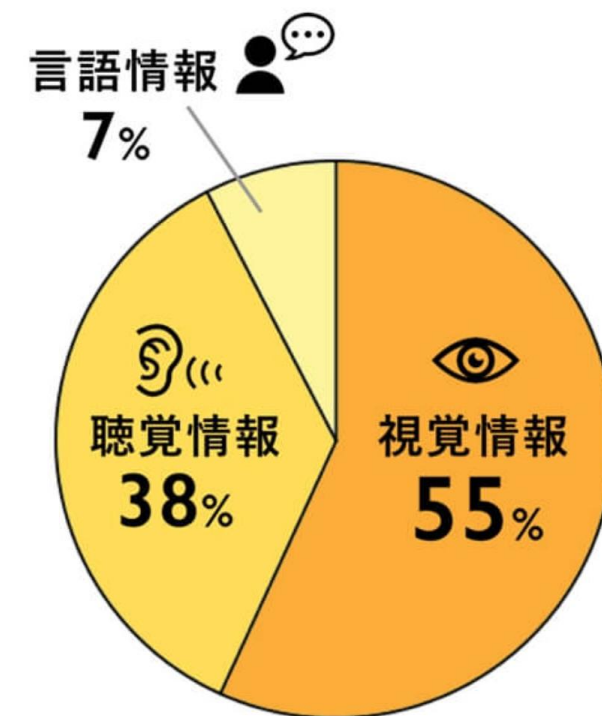
エ 代替行動分化強化 : 不適切行動に置き換わる代替りの行動を強化

段階 : 【指示】 → 【再度指示】 → 【警告】 → 【罰】 ※ 事前合意

肯定的なかかわりを増やす

【ストローク】

種類	肉体的なもの	心理的なもの	言葉によるもの
肯定的 (快)	- 肌のふれあい - なでる - さする - 抱擁する - 握手する	- 心のふれあい - ほほえむ - うなづく - 耳を傾ける - 受容や共感	- ほめる - なぐさめる - 励ます - 語りかける - 挨拶をする
否定的 (不快)	- たたく - なぐる - ける - つねる - 暴力行為	- 返事をしない - にらみつける - あざわらう - 無視する - 信頼しない	- 叱る - 悪口を言う - 非難する - 責める - 皮肉を言う



肯定的なかかわりを増やす

「ほめる」療育活動の整理（R2.6.12叶研修補足資料 by サンクスシェア）

目的（なにをねらって？）	内容（どんなことを？）	方法・留意点（どうやってほめる？）
本人の発達・成長のために ①「発達的特質（知徳体）」 ②「個人的特質（性格）」 （自信 チャレンジ心等）	・ できたこと ・ できるようになったこと ・ その子にとって伸びたこと ・ チャレンジしたこと ・ いつもと違うよい行い	・ 具体的に（何をほめられているのかが理解できるように） ・ 普段からの本人の発達・成長の把握（必要に応じて、アンケートや標準検査の活用。特に「変化」を見つけるには、記録の充実が重要）
本人の快感情実感のために （喜ぶ 達成感 元気等）	・ 本人が喜ぶこと ・ 本人がうれしいこと	・ 相手の快感情及び快感情表現のアセスメント（保護者や関係機関からの情報収集＆普段からの観察とスタッフ間での情報の共有 やはりこれも記録が重要）
本人の承認のために （認める わかってあげる等）	・ 存在そのものの肯定 ・ 人格そのものの肯定	・ 本心でないと見破られる可能性がある（感情も含めた伝えるスキルトレーニングは必須）

「伝わる」ために・・・

- 【手 順】 ・ まず、注目をさせてから ・ 相手の目を見て ・ 照れずに
- 【スキル】 ・ **ノンバーバル**の活用（表情、身振り、周りの環境、+ **人に好感を与える身なりや立ち振る舞い**）
- 【意識】 ・ 何を誉められたいのかを把握＆意識をして
- 【工夫】 ・ 支援者の気持ちや考えを付け加えて
 （他児者の同意見が加わると効果倍増！ = **心理劇補助自我**）

人格をほめる

かかわりのポイント

かかわりは、大きく2パターン

1. チャレンジング行動が強化されている状況を断ち切る
2. （計画的無視の活用と同時に）肯定的なかかわりを増やす
= 適切な行動が強化される確率を増やす

※ チャレンジング行動が多い子に対して、「人格をほめる」スキルを磨く！

⑤ チャレンジング行動がおこらない環境設定をする

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが
手に入る

レベルⅠ

『A』の状況を変える

「環境設定」

レベルⅡ

『C』の結果を変える

「かわり」

レベルⅢ

『B』の行動を変える

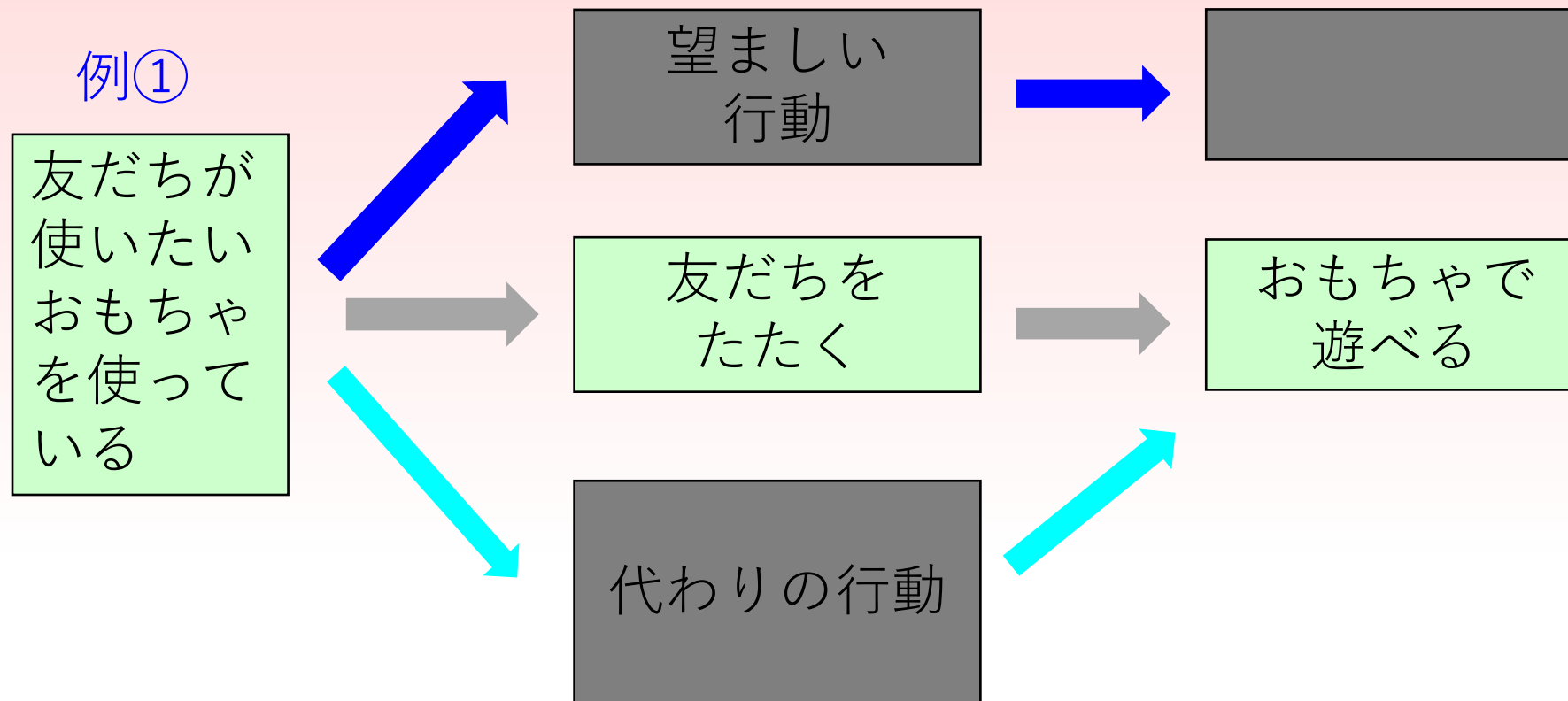
“ABC分析 → 支援” の考え方

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

望ましい行動を身に付けさせる（ABA：バイパスモデル）

【子どもの力を高める支援を検討する】

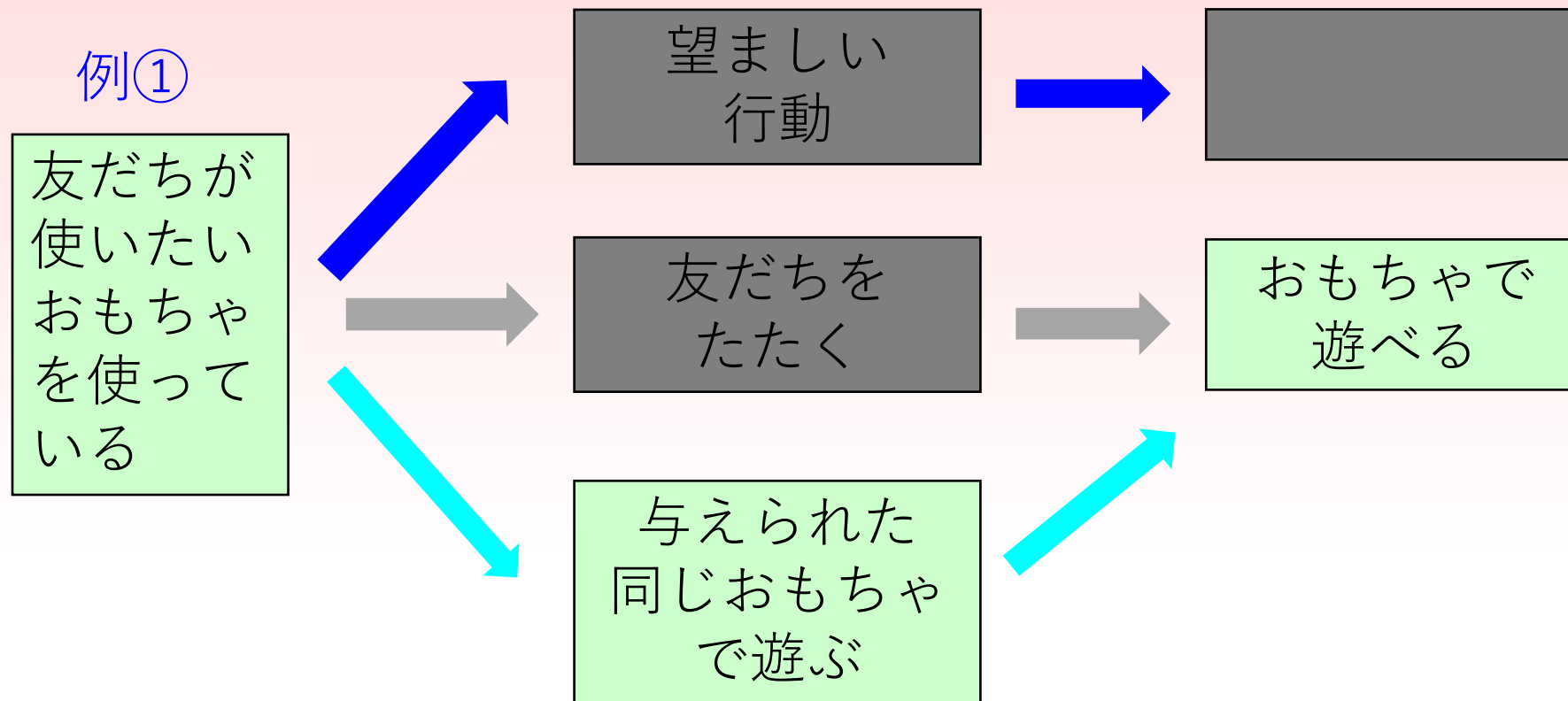


※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力＆支援力養成ガイド

望ましい行動を身に付けさせる（ABA：バイパスモデル）

【子どもの力を高める支援を検討する】

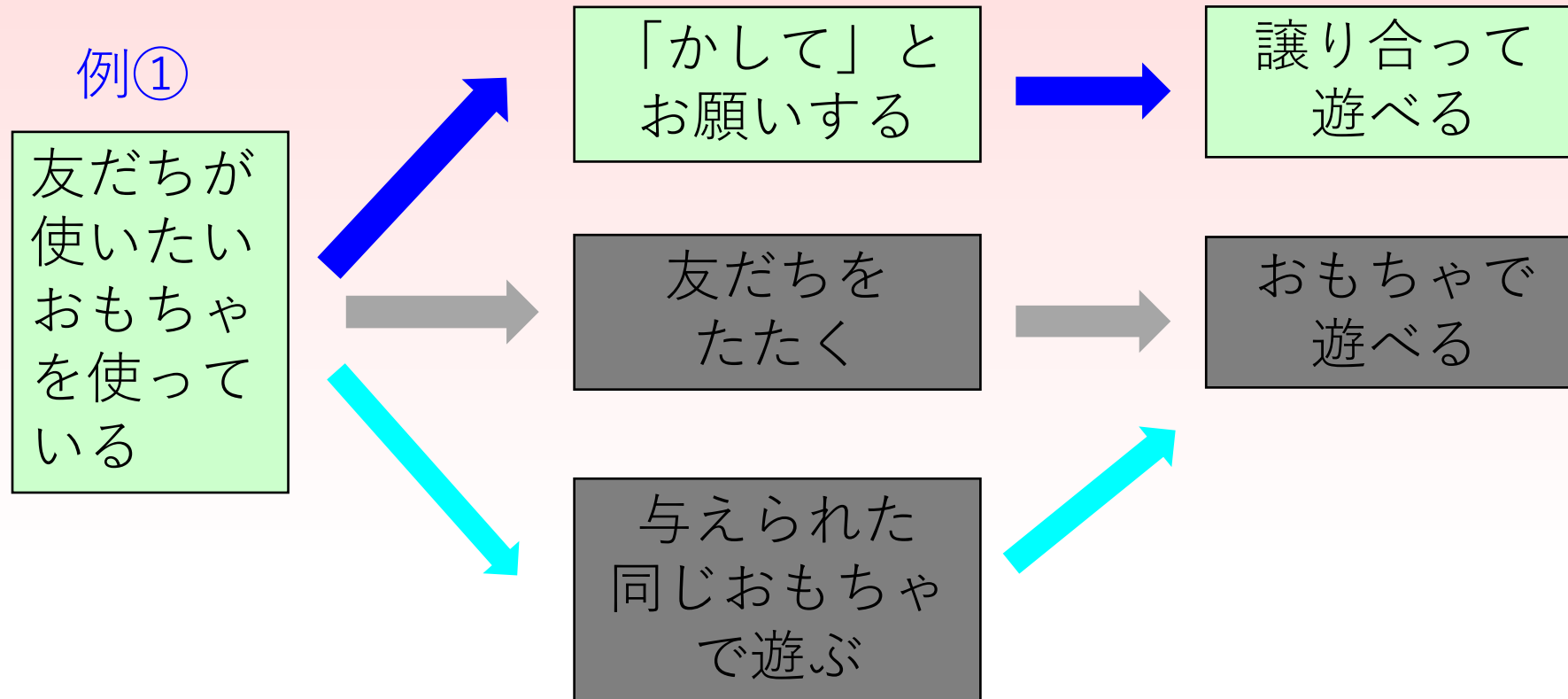


※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力＆支援力養成ガイド

望ましい行動を身に付けさせる（ABA：バイパスモデル）

【子どもの力を高める支援を検討する】



※ 学ぶ力を身に付けるスモールステップを踏んで！

子ども観察力＆支援力養成ガイド

【状況】高等部1年生のB君は、「**教室の掃除用具ロッカーに入り込む**」という不適切な行動が多い生徒でした。その行動は、何もすることがない暇な状況で特によく起こすようでした。ロッカーに入り込むと、何かブツブツ言っていたり鼻歌を歌っていることが多いのです。

そこでまず取り組んだことは、これまで好き勝手に入り込める状況だったのを、

① **「きゅうけい」カードを担任に渡さないと入れないルールを徹底**（カードを渡せば入ることを許可される）

次にこのルールが定着したことを見定めてから、

② **一日に使えるカードの枚数を徐々に減らしていった。**

最初は10枚使えたのを、**2週間かけて5枚にまで減らしていった。**

それに伴い順調にその制限枚数に収まるように入り込む回数と総時間数が減っていきました。

さらに暇な時間をできるだけ減らすために、

③ **iPadでYouTubeの動画を見ることに誘導**

B君は昔懐かしい「東京フレンドパーク」を見ることがお気に入りなのですが、

iPadを手の届かない棚の中にしまっておく

とそこを指差して、「フレンドパーク！」と一語文で要求するようになりました。

そこでさらに欲張って、

「フレンドパーク、見せてください」という二語文で言うように教えていった

ところ、それも定着しました。

そうこうしているうちに、今ではロッカーに入り込むことは全くなくなりました。

⑤ チャレンジング行動がおこらない環境設定をする

A (状況)

店でほしいものをみつける

B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ

C (結果)

ほしいものが
手に入る

レベルⅠ

『A』の状況を変える

「環境設定」

レベルⅡ

『C』の結果を変える

「かわり」

レベルⅢ

『B』の行動を変える

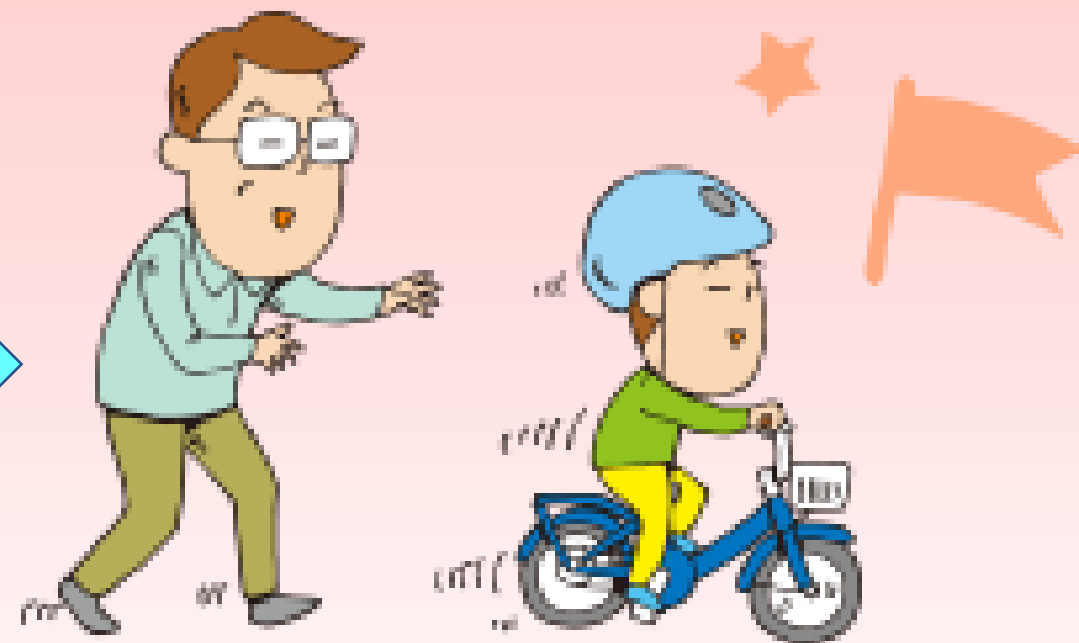
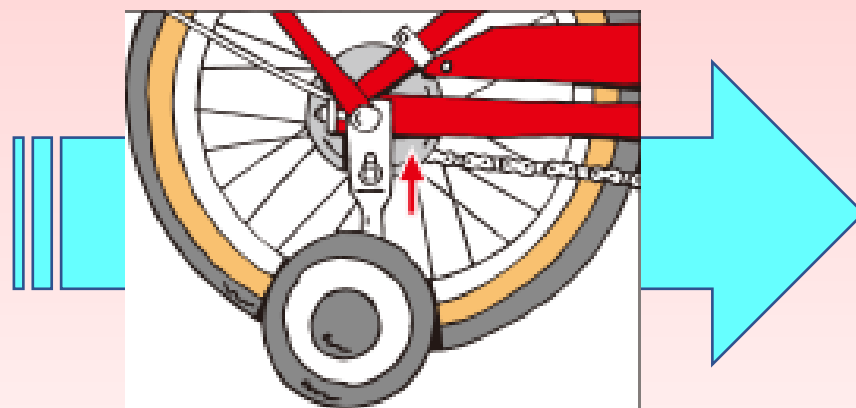
“ABC分析 → 支援” の考え方

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

望ましい行動を身に付ける 5 段階戦略

- ① 不適切な行動の『軽減』 **「分化強化」「消去」**
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② 望ましい行動の『獲得』 **「シェイピング」「SST」**
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ 獲得した行動の『維持』 **「強化スケジュール」**
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ 獲得した行動の『般化』 **「習慣化」**
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ 獲得した行動の『自立』 **「フェイディング」**
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす



支援 = 補助輪
つけ

補助輪
はずし

ひとりでできる

支援の
「つく」と「はなれる」

手助けの量

宿題時に事業所飛び出し！

- ⑦ 施設を飛び出し！
- ⑥ Aスタッフ、Bスタッフが制止する
- ⑤ 宿題を紙吹雪状にびりびりと破る
- ④ 他の児童から呼ばれて、本人から離れる
- ③ ローマ字表を持ってくる + ホワイトボードを持ってくる
- ② 「教えて～！」 Aスタッフが対応
- ① 順調に宿題（ローマ字の読み書き）を開始

宿題時に事業所飛び出し！

【行動問題を起こした本人の思い・考え】

「（まわりが）うるさい」

「ローマ字が苦手、わからん！」

「写す作業もわからん！ 疲れる・・・」

「サクサク教えてほしい。ペースが合わん！」

「（先に友だちが終わったのを見て）あせった！」

「（Aスタッフが離れて）いつ帰ってくるかわからん！」

宿題時に事業所飛び出し！

ひとりの「ひと」として『いとおしむ』

信頼関係づくり

わたしたち支援者の『しごと』 = ほめどころを「みつける」こと
「とりだす」こと